

人工海岸利用者の海岸ゴミに対する意識調査

千葉工業大学 学生員 ○矢野 守
 千葉工業大学 学生員 並木 勇輔
 千葉工業大学 学生員 矢島 秀二
 千葉工業大学 フェロー 矢内 栄二

1. はじめに

海岸は、年間を通じて多様な目的で多くの人に利用されている。東京湾奥部に位置する人工海浜いなげの浜は、年間 20 万人以上の人に利用されている海岸である。しかし、海岸ゴミが利用者に大きな影響を及ぼしているため、管理者にとって重要な問題である。本研究では、海岸ゴミに対する利用者の意識を把握するため、人工海浜いなげの浜において利用者の意識調査を行った。

2. 調査日及び天候

調査期間は、2003 年～2005 年の 4 月～8 月とし、月に 1 回アンケート方式による意識調査を行った。各調査日の天候、気温、対象者数は表-1 の通りである。また、アンケート内容は海岸利用者の属性、利用目的と頻度、海岸ゴミに対する評価など 13 項目とした。

表-1 調査日の気象条件

年	季節	調査日	天候	最高気温(℃)	最低気温(℃)	対象者数(人)
2003	春季	4月29日	晴	27.6	18.7	88
		5月3日	晴一時曇	21.3	13.4	99
	夏季	6月4日	曇後一時雨	24.0	15.2	53
		7月30日	晴一時曇	31.6	26.1	120
		8月6日	晴後一時曇	32.2	26.0	101
2004	春季	4月29日	晴	23.9	10.2	92
		5月23日	曇	15.2	11.4	38
	夏季	6月5日	晴	27.6	16.3	81
		7月24日	晴	32.5	25.8	72
		8月17日	曇後雨	31.4	23.5	30
2005	春季	4月29日	晴	24.4	14.9	73
		5月3日	晴時々曇	24.6	17.0	144
	夏季	6月14日	曇後雨	29.7	20.0	50
		8月11日	晴	32.1	26.0	71
		8月23日	晴	32.1	25.4	122

3. 調査結果

3.1 利用者の特性

表-2 に回答者の内訳を示した。2003、2004、2005 年について、それぞれ 472 人、313 人、461 人の回答者数であった。各年の男女比はほぼ同程度であり、

アンケート いなげの浜 海岸ゴミ

千葉県習志野市津田沼 2-17-1 (〒275-8588) 千葉工業大学土木工学科

30 代の利用者が多く見られた。図-1 に利用者の利用目的を示す。夏季では海水浴、春季では散歩が多い。このことから利用目的は季節によって違うことがわかる。

表-2 回答者の内訳

	2003		2004		2005	
性別	男性	女性	男性	女性	男性	女性
10代	29	34	5	13	12	19
20代	38	31	59	26	59	37
30代	75	86	37	66	71	97
40代	34	25	23	18	41	27
50代	33	32	16	11	28	17
60代以上	36	19	25	14	37	16
合計	245	227	165	148	248	213

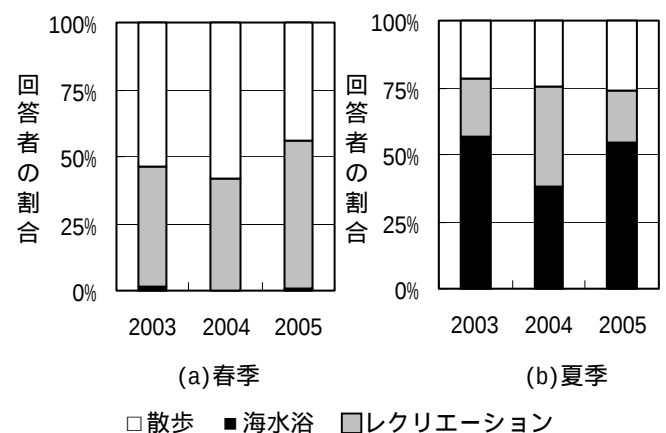


図-1 利用目的

3.2 海岸ゴミに対する印象

図-2、3 は、2003 年～2005 年のゴミに対する印象の変化を季節別に示したものである。春季では「少ない」と回答した人が、32.3%→33.8%→44.4%と増加している。さらに「多い」と回答した人が 23.9%→23.1%→21.9%と減少している。夏季では「少ない」と回答した人が、23.9%→23.1%→21.9%と減少し、「多い」と回答した人は 40.7%→30.6%→30.7%と 2003 年に比べて 2004、2005 年は減少している。

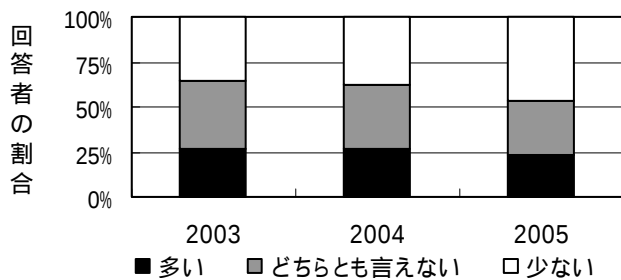


図-2 ゴミに対する印象（春季）

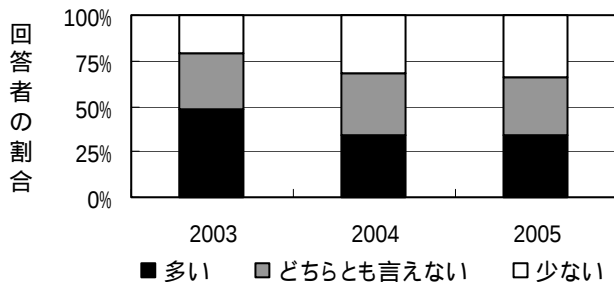


図-3 ゴミに対する印象（夏季）

3.3 利用者が考えるゴミ対策

図-4 は、利用者が考えるゴミ対策の集計結果を示したものである。「利用者がゴミを出さない」と回答した人は、春季、夏季とも 2004 年で 70%以上に増加し、2005 年には減少するものの、65%以上の回答者がゴミを出さないと答えた。このことから、利用者の海岸に対する清掃意識が高いことがわかる。

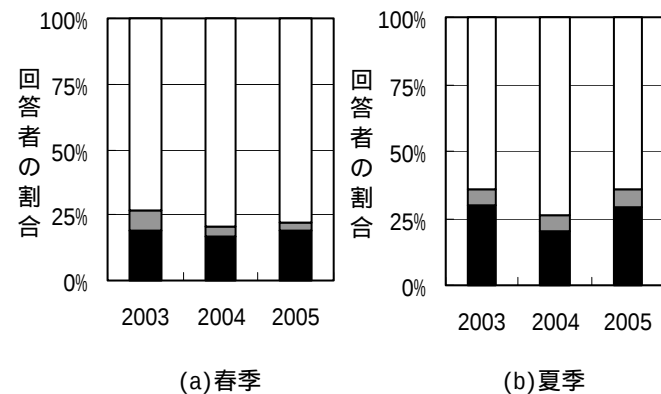


図-4 利用者が考えるゴミ対策

3.4 清掃適任者及び定期清掃の認知度

図-5 は利用者が考える清掃適任者の集計結果を示したものである。「個人」、「ボランティア」、「県・市」のうち「個人」の回答が最も多く、2005 年の夏季以外は半数以上であった。また、個人と回答した人で春季と夏季の 3 年間の平均を比べると、春季は 61.6%、夏季は 51.3%と春季の方がゴミに対する清掃意識が高いということがわかった。

図-6 は定期清掃の認知度を示したもので、知っていると答えた人は 29%→36%→33%と 2003 年に比べ 2004 年、2005 年の定期清掃の認知度が高いということがわかった。

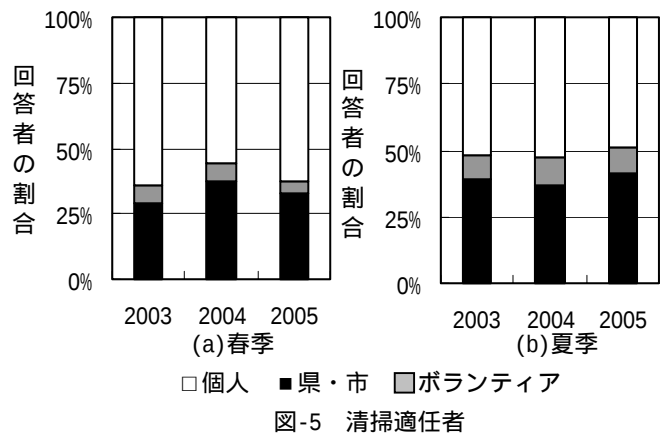


図-5 清掃適任者

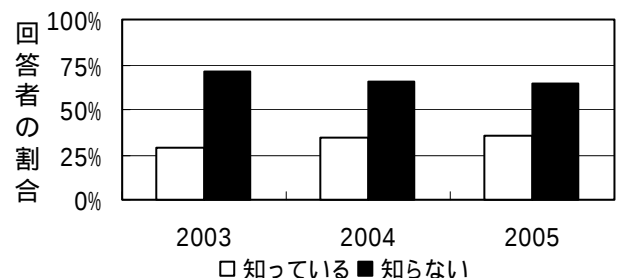


図-6 定期清掃の認知度

4. まとめ

ここ 3 年間では男女ともに 30 代の利用者が多いということがわかった。海岸の利用目的は、春季では散歩、夏季では海水浴と季節によって目的が変わってくる。また、利用者の海岸ゴミに対する印象は「多い」と回答した人が減少し、「少ない」と回答した人が増加していることがわかった。これは、管理事務所が定期的に清掃を行っていることや、「利用者がゴミを出さない」という回答者が年々増加していることから、個人での清掃意識が高くなっているからだと思われる。

参考文献

- 1) 矢内栄二・米田規幸・矢島秀二 (2004): 人工海浜「いなげの浜」の維持管理における問題点とその要因, 海岸工学論文集, 第 51 巻, pp1256-1260
- 2) 井上雅夫・橋中秀典・近藤雅彦・橋詰雅子 (2002): 秋冬季節における砂浜海岸の利用実態調査, 海岸工学論文集, 第 49 巻, pp1396-1400
- 3) 矢内栄二・米田規幸・矢島秀二・本田徳裕 (2004): 人工海浜における海岸ゴミの実態調査, 海洋開発論文集, Vol.20, pp407-412